

持続的な交流の創造

JTB交流文化賞 受賞地域のいま—2015

—第9回(2013年度)優秀賞

尾道空き家再生プロジェクト(広島県尾道市)

負の遺産を町の宝に！
「尾道空き家再生プロジェクト」

瀬戸内らしい港町の尾道。坂の町の狭い路地に寄り添う家々が、懐かしさを覚える日本の原風景を醸し出してきたが、ここにも空き家・廃屋の増加という問題が進んでいた。その故郷の風景を守るため、スクラップ&ビルドをするのではなく、地域の人の手で再生し、外部の学生たちも一緒に楽しくながら街並みの保全と空き家の新たな活用に2007年から取り組んでいる。2009年からは尾道市と協働で「空き家バ

ンク」も開始した。民間のフットワークの軽さを生かして利用しやすい窓口へと進化させ、空き家が新たな担い手の手に渡っていった。地域の理解も深まり、空き家の提供者は倍増した。尾道市も新しく空き家の補助制度を新設してくれるまでに至った。また、ゲストハウス「あなごのねどこ」をオープンしたことで、尾道を訪れる若者や外国人観光客も増加している。

今年で第11回となる「JTB交流文化賞」は、まだ完成されていないが今後発展の可能性のある「持続可能な観光」を応援する賞だ。これまでの受賞地域は、受賞を機にどう地域の可能性を広げていったのか。第9回最優秀賞に輝いた神岡・町づくりネットワーク(岐阜県飛騨市)と第9回優秀賞の尾道空き家再生プロジェクト(広島県尾道市)の今を追った。

—第9回(2013年度)最優秀賞

神岡・町づくりネットワーク(岐阜県飛騨市)

線路よ響け!!いつまでも
レールマウンテンバイク「Gattan Go!!」

江戸時代から日本の社会・産業の発展を支えてきた神岡鉱山。馬車軌道から始まった神岡鉄道は2006年の廃線まで飛騨神岡地域の歴史そのもの。地域の人々にとっては廃線を交通近代化の結果とあきらめるわけにいかず、地域の歴史である軌道を守ることへこだわり、地元有志のアイデアと熱い思い、地元企業のモノづくりの精神が「レールマウンテンバイク」を生み出した。レールマウンテンバイクとは、市販のマ

ウンテンバイク2台を鉄道のレール幅に合わせた特製のフレームで固定し、マウンテンバイクを2人でこぐことで前進する新感覚の乗り物。レールとレールのつなぎ目で「ガタンゴトン」という現役時代さながらの音を響かせ、「廃線」のネガティブなイメージを払拭しながら走り続ける。子供世代にはGattan Go!!(ガッタンゴ)のニックネームで呼ばれる。シンプルながら軌道そのものを体感し楽しめる観光資源に転換した。



外国人客も数多く宿泊するゲストハウス「あなごのねどこ」

JTBとの連携は街全体で

NPO法人尾道空き家再生プロジェクト代表の豊田雅子氏は、JTBで海外旅行添乗を8年ほど経験した後、大阪から地元尾道に戻り、今、活動を始めた。「ヨーロッパの国々を回り、向こうの街並みをよく観察した街はたくさんある。尾道も地形や歴史、建物など良



改装中の第2ゲストハウス

NPO法人尾道空き家再生プロジェクト代表 豊田氏



活動を知ってもらえる

NPOなので資金集めが非常に大変。いろいろな補助金に申請を出している。そういう中でJTB交流文化賞の存在を知り、賞金がいただけるという機会が非常に大きかった。実際に賞金をいただいてから、地域の活動を知ってもらえるようになった。地方の活動を知ってもらえるという大きなきっかけになった。地域の活性化に取り組んでいる他の地域のみなさんとの交流も生まれる。

交流文化賞受賞の声

「地恵のたび」のコースの一つとして商品化されている。空き家を活用した街づくりの現場を見学するという、学びの企画だ。今後のJTBとの連携について豊田氏は「私たちの団体の活動は観光がメインではない。ツアーを組んでも尾道の街は大きなキャパシティがなく、坂道も多いため集客は難しいかもしれない。だが、尾道は、日本遺産に選定されている魅力がある。空き家の再生などでも活気づいていく。尾道全体の街づくりに取り組みたい。JTBとの連携はいろいろな考えがある。」



斜面に建つ尾道の家々

小さな取り組みが全国販売に

廃線後に残された軌道は、見晴らしのいい高架や真っ暗なトンネル、四季折々の風景が広がる大規模なトンネルなど、多く「自転車に乗ることを初めて体験した」という感動の声も聞かれている。創業から8年でレールマウンテンバイクの利用者は10万人を超えて、ますます補助席を付けることで若男女を問わず楽しめることから人気を集める。自転車特製のフレームに強固に固定

た。また、ますます補助席を付けることで若男女を問わず楽しめることから人気を集める。自転車特製のフレームに強固に固定



風を切って走るレールマウンテンバイク



枕木交換イベントの様子

件ほどのツアー客が訪れる。支店だけでなく、代理店、提携店を含めた全国的なネットワークを持つJTBとの連携が深まったことにより、ツアー企画としてレールマウンテンバイクが販売される機会が増大した。田口氏は「日本全国の人が奥飛騨の小さな廃線利用の取り組みの話をしているというのには正に奇跡のような出来事だ」と感慨深げに語る。レールマウンテンバイクは神岡町で開発された新しい乗り物。「車両のラインアップや運行規定なども複雑で、全ての窓口の担当者やお客さまに理解してもらうのは難しい。手配の際には、担当者とお客さまが「レールマウンテンバイクって何だろう」「どうすれば家族で楽しめる乗り方ができるのか」といったやり取りをしているのだ」と思っていると想像する田口氏。運行区間の先には、17キロの区間が延びている。沿線には深谷や清流など神岡町民が誇る素晴らしい風景、スリリングな鉄橋など、現行のコースとはまったく違う楽しみがある。この区間にレールマウンテンバイクを走らせたいというのが創業当初からの夢だ。



延伸希望区間の漆山地区

交流文化賞受賞の声



NPO法人神岡・町づくりネットワーク・レールマウンテンバイク事務局 田口氏

大きな自信につながった

い切り口のレジャーに對して、半信半疑の思いの持った事業の滑り出した。人数は少なくても、関係する「人」がどれだけの熱意と「プライド」を持って取り組むかに関わっている。それがお客さまに伝わり、実績となって結ぶ。

第11回 JTB交流文化賞 募集中! 応募締め切り 2015.9.15(火)

JTB交流文化賞は、地域に根ざした持続的な交流の創造と各地域の魅力の創出、地域の活性化に寄与することを目的として、2005年に創設され、毎年開催しています。第11回を迎えた今回も各地における観光振興に対する斬新な取り組みや、実際に体験した交流文化の事例を募集・選定・表彰するとともに、受賞地域を様々なかたちでバックアップして参ります。多くの皆様のご応募を心よりお待ちしております。



交流文化賞 組織・団体部門

JTBは、地域の観光交流・地域活性化の取り組みを支援・推進いたします。

「わが「まち」に誇りを持つために」

地域活性化の活動は、従来から地域に生きている自然や文化、歴史などの価値を損なうことなく、地域が持つ豊富な知恵や特性を存分に活かしたアイデアを盛り込むことが重要です。等身大のまちの姿をありのままに伝えながら、まち全体でもてなす工夫を見つけた時、旅行者に新鮮な感動を与えられ、地域の皆様はわが「まち」に誇りを感じられることで、そんな地域の取り組みを教えてください。

募集内容

名称	交流文化賞 組織・団体部門	応募様式	指定の応募用紙
対象	組織・団体		
テーマ	国内外を問わず、地域として、地域固有の魅力の創出・需要の創造、地域活性化、双方の文化・交流など、オリジナリティを活かした「持続可能な観光」の取り組み事例を募集します。 ※前回応募いただいた取り組み事例も応募いただけます。 ※過去に受賞された取り組み事例は対象外です。	最優秀賞 1作	賞金100万円
		優秀賞 2作	賞金50万円

交流文化賞 一般体験部門
交流文化賞 ジュニア体験部門

目で見るだけでは物足りない。五感で感じて触れあった旅の体験ほど、心に深く刻まれて人生での大きな糧となるでしょう。著名な観光地を訪れるだけでなく、自らが見つけて、知って、交流するという能動的な旅のスタイル。交流文化賞体験部門では、旅を楽しむあなたの人となりのつながりやふれ合いから生まれたエピソードを募集しています。

募集内容、応募要項など詳しくはホームページをご覧ください。

第11回 JTB交流文化賞 選考委員



郵送またはインターネット*でご応募いただけます。詳しくはホームページをご覧ください。

*交流文化賞 ジュニア体験部門は郵送のみ受付

JTB交流文化賞

検索

お問い合わせ先

JTB交流文化賞事務局(株式会社JTB総合研究所内) | TEL.03(3525)4559(10:00~17:30 土・日・祝日休み) FAX.03(3525)4565 e-mail: jtb-kbunkasho@tourism.jp

JTB
感動のそばにいつも。